



公開講演会のご案内

主催：立教セカンドステージ大学

日時：2016年6月20日(月) 18:30～21:00

場所：池袋キャンパス 8202教室(8号館2階)

ドキュメンタリー映画「首相官邸の前で」 上映会&トーク

3.11の福島第1原発事故の後、毎週金曜日の夕方18-20時に継続して首相官邸前に集まって脱原発の抗議行動をした人々。最大ピーク時には20万人を動員した。その行動に参加したひとりひとりを追いかけて、また個人がブログやSNSに挙げた膨大な記録映像を集めて、市民の「共同製作」ともいべき画期的な作品を生み出した。監督の小熊英二は社会学者。「これを記録しなければ」と思ったときに、「他人に頼まないで自分でやろう」と思ったという。ひとは変わる、社会は変えられる…ことを実感する感動の映像。

講師：小熊英二 映画監督・社会学者
慶應義塾大学総合政策学部教授

≪講師略歴≫

出版社勤務を経て、慶應義塾大学総合政策学部教授
サントリー学芸賞・大仏次郎論壇賞・毎日出版文化賞・角川財団学芸賞などを受賞

上野千鶴子 東京大学名誉教授・RSSC客員教授
香山リカ 精神科医・立教大学現代心理学部教授

第1部 映画「首相官邸の前で」上映会（上映時間109分）
第2部 監督とRSSC教員によるトークショー
出演 小熊英二監督・上野千鶴子先生・香山リカ先生（40分）

対象：RSSC受講生、本学学生、教職員、校友、一般
受講：無料
申込：不要

お問合せ先：立教セカンドステージ大学事務室
(電話 03-3985-4672)

小熊英二 監督

写真撮影 生津 隆彦



<小熊監督の言葉>

私は、この出来事を記録したいと思った。自分は歴史家であり、社会学者だ。いま自分がやるべきことは何かといえば、これを記録し、後世に残すことだと思った。映画を撮ったことはなかった。映画作りに関心を持ったこともなかった。しかし、過去の資料の断片を集めて、一つの世界を織りあげるのは、これまでの著作でやってきた。扱うことになる対象が、文字であるか映像であるかは、このさい問題ではなかった。いうまでもないが、一人で作った作品ではない。同時代に現場を撮影していた人びと、インタビューに応じてくれた人びとが、すべて無償で協力してくれた。

なにより、この映画の主演は、映っている人びとすべてだ。その人びとは、性別も世代も、地

位も国籍も、出身地も志向もばらばらだ。そうした人びとが、一つの場につどう姿は、稀有のことであると同時に、力強く、美しいと思った。

<第2部 監督を迎えてのトーク>

本作品の自主上映条件には「参加者が映画について意見交換する時間を設けること」とある。小熊監督を迎え、本学RSSC教員で反安保法制の運動にも関わった上野千鶴子と香山リカがトークに加わる。監督はこう言う。「いろいろな見方のできる映画だと思う。見た後で、隣の人と、率直な感想を話しあってほしい。映画に意味を与えるのは観客であり、その集合体としての社会である。そこから、あなたにとって、また社会にとって、新しいことが生まれるはずだ。」（公式HP等から一部抜粋）

<プロフィール>

小熊英二（おぐま・えいじ）

1962年東京生まれ。出版社勤務を経て、慶應義塾大学総合政策学部教授。福島原発事故後、積極的に脱原発運動にかかわり、メディア上での発言も多い。2012年の著作『社会を変えるには』で新書大賞を受賞。他の著作に『単一民族神話の起源』（サントリー学芸賞受賞）、『<民主>と<愛国>』（大仏次郎論壇賞、毎日出版文化賞）、『1968』（角川財団学芸賞）など。映像作品の監督は今回が初めてだが、脱原発運動のなかで得ていた信用のために、多くの映像提供などの協力を得ることができた。

上野千鶴子（うえの・ちづこ）

1948年生まれ、東京大学名誉教授、立命館大学特別招聘教授、RSSC特任教授。認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長。長きにわたって女性運動を牽引してきた。「安全保障関連法案に反対する学者の会」の発起人のひとり。

香山リカ（かやま・りか）

1970年生まれ。精神科医。立教大学現代心理学部映像身体学科教授。本学・RSSC教員で社会問題にも発言やアクションを行っている。